

教科名	社会科	校種	中学校
-----	-----	----	-----

科目の配当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など、授業の形態
1年	社会（地理）	必	3	
2年	社会（歴史）	必	3	
3年	社会（公民）	必	4	

科目名(教科名)	中学社会・地理的分野 ( 社会科 )				
担当教員	船木 暢夫				
学年	1	単位数	3	必修・選択・展開	必修

### ■ 授業の目的

1. 世界及び日本地理の基本的知識を学ぶ。すなわち社会生活に必要な「常識的」な地理知識(各国・各地の特徴・生産物・自然環境・観光地など)をしっかりと知り、高校以降の学習に繋がる学術的知識を得る。
2. 地理を通して、国内外の社会的問題を考える。とりわけ、環境・人口・途上国と先進国との経済格差など、今後の世界の根源的な問題について考える。
3. 自ら地理に関する課題を探求していく作業において、課題解決に向けての調査・考察の適切な方法を学び、十分に検討を行った上で、答えを導き出す力を身につける。

### ■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1 学期	世界の姿 世界各地の人々の生活と環境 世界の諸地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界認識の第一歩として地球儀・世界地図の見方を学ぶ。また特徴ある国々を知る。</li> <li>・世界の地形や気候区分を理解する。</li> <li>・世界の国々について、各地域別(アジア・ヨーロッパ・アフリカ)に学ぶ。自然環境、産業、観光地、日本との関係などを関連させて理解する。(適宜、生徒による発表やテーマ学習を行う)</li> </ul>
	世界の諸地域(続き) 世界と比べた日本の地域的特色 日本の諸地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の国々について、各地域別(南北アメリカ・オセアニア)に学ぶ。自然環境、産業、観光地、日本との関係などを関連させて理解する。</li> <li>・世界の中での、日本の自然環境や産業の特徴を理解する。また関連地域を通して過疎・過密、環境保全などの問題を学ぶ。</li> <li>・日本を各地域別に学ぶ(九州・中四国・近畿)。各地の自然環境、生産物、観光地などを相互に関連付けつつ知識と理解を深める。</li> </ul>
3 学期	日本の諸地域(続き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本を各地域別に学ぶ(中部・関東・東北・北海道)。各地の自然環境、生産物、観光地などを相互に関連付けつつ知識と理解を深める。</li> </ul> <p>※上記授業計画は、授業展開の進行や生徒の状況から変更する場合があります。</p>
評価の 観点	【思考・判断・表現】	レポートなどの提出課題に書かれた感想などに着目する。また定期テストの記述問題への解答も評価の材料とする。
	【知識・技能】	定期テストの得点に着目するとともに、ノートのみまとめ方や発表時に作成した資料などに着目する。
	【主体的に学習に取り組む態度】	授業態度や発言・質問内容、提出物のコメントなどに着目し、また自主的な学習の成果に着目する。
評価の 方法と 割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 評価方法 : 定期テスト+ノート、提出物・発表など平常点を加味して評価する。</li> <li>● 割合 : 定期テスト70%+平常点30%</li> </ul>	
教科書・ 副教材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教科書 : 「中学生の地理」帝国書院</li> <li>● 副教材 : 「アクティブ地理」浜島書店、「新編 中学校社会科地図」帝国書院</li> <li>● 問題集 : 「ワーク地理I・II 帝国書院版」エデュケーショナルネットワーク</li> </ul>	

科目名(教科名)	中学社会・歴史的分野 ( 社会科 )				
担当教員	小山 佳苗				
学年	2	単位数	3	必修・選択・展開	必修

### ■ 授業の目的

1. 日本・世界の過去に起こった事象をその関係性に焦点を当て、正しく把握する。
2. 歴史的事象を機械的に暗記するのではなく、なぜそのような事件が起こったのか、その結果どうなったのかを結びつけることによって理解する。
3. 歴史的事象を現代までつなげていくことによって、歴史が現代世界に与えている影響について理解する。

### ■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1学期	歴史を学ぶにあたって 原始・古代の日本と世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入</li> <li>・人類の出現と文明のおこり</li> <li>・日本の成り立ちと倭の王権</li> <li>・大帝国の出現と律令国家の形成</li> <li>・貴族社会の発展</li> </ul>
2学期	中世の日本と世界  近世の日本と世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の動きと武家政治の始まり</li> <li>・揺れ動く武家政治と社会</li> <li>・結びつく世界との出会い</li> <li>・天下統一への歩み</li> <li>・幕藩体制の確立と鎖国</li> <li>・経済の成長と幕政の改革</li> </ul>
3学期	近代の幕開け  近代の日本と世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代世界の確立とアジア</li> <li>・開国と幕府政治の終わり</li> <li>・明治維新と立憲国家への歩み</li> <li>・激動する東アジアと日清・日露戦争</li> <li>・近代の産業と文化の発展</li> </ul> <p>※3学期中に終わらない内容が出た場合は、中3で継続して学習する。また、上記授業計画については授業展開の都合や生徒の状況から変更する場合がある。</p>
評価の観点	【知識・技能】	知識を問う発問への応答、史資料を読み取る力
	【思考・判断・表現】	テスト・提出物の思考を問う課題に対する記述など
	【主体的に学習に取り組む姿勢】	提出物の完成度、授業中の積極的な活動など
評価の方法と割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 評価方法 : 定期テスト+提出物など平常点を加味して評価する。</li> <li>● 割合 : 定期テスト約70%+平常点(提出物・発表)など約30%</li> </ul>	
教科書・副教材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教科書 : 「中学社会 歴史 未来をひらく」教育出版</li> <li>● 副教材 : 「ビジュアル歴史」とうほう</li> <li>● 問題集 : 「ワーク歴史I・II 教育出版版」エデュケーショナルネットワーク</li> </ul>	

科目名 (教科名)	中学社会・歴史的分野 公民的分野 (社会科)				
担当教員	遠藤 諒				
学年	3	単位数	4	必修・選択・展開	必修

### ■ 授業の目的

#### 【歴史的分野】

1. 中学歴史の続きを学ぶ。現代史を公民分野の前提として理解する。

#### 【公民的分野】

1. 現代社会における様々な課題の根本を主体的に捉え、総合的な思考で理解する。
2. 自らの「公民」として使命を自覚し、社会において積極的に意見を出し行動する人間を目指す。
3. 現代社会に関する課題を探究していく中で、課題に向きあう考察の方法を学び、十分に検討を行った上で、答えを導き出す力を身につける。

### ■ 授業計画

学期	授業の項目	内容
1 学期	【中2歴史の続き】	・ 第一次世界大戦～第二次世界大戦～現代まで
	【公民的分野】 私たちと現代社会  私たちの生活と政治 I	・ 私たちが生きる現代社会・世界の特色 ・ 現代社会・文化をとらえる見方や考え方 ・ 現代社会を生きるには ・ 人が生きることと憲法
2 学期	私たちの生活と政治 II	・ 個人の尊重と日本国憲法 ・ 国民主権と日本の政治
	私たちの生活と経済 I	・ 消費生活と経済のしくみ ・ 生産の場としての企業 ・ 働く意味と雇用のあり方
3 学期	私たちの生活と経済 II	・ 金融のしくみとお金の価値 ・ 財政と国民の福祉
	私たちと国際社会  私たちの課題の向き合い方	・ 国家と国際社会 ・ 国際社会の課題と私たちの取り組み ・ 社会とどのように向き合うか考える
評価の 観点	【知識・技能】	・ 年間5回行われる定期試験でいかに解けているかなど。
	【思考・判断・表現】	・ レポートなどの提出課題に書かれた感想など。
	【主体的に学習に取り組む態度】	・ 授業中の積極的な発言や質問、レポート等で自ら進んで課題を設定できているかなど。
評価の 方法と 割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 評価方法 : 定期テスト+ノート、提出物など平常点を加味して評価する。</li> <li>● 割合 : 定期テスト約70%+平常点(ノート・提出物・発表など)約30%</li> </ul>	
教科書・ 副教材等	<p>【歴史分野】 ● 教科書 : 「中学社会 歴史 未来をひらく」 教育出版</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 副教材 : 「ビジュアル歴史」 とうほう</li> <li>● 問題集 : 「ワーク歴史II 教育出版版」 エデュケーショナルネットワーク</li> </ul> <p>【公民分野】 ● 教科書 : 「中学社会 公民的分野」 日本文教出版</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 副教材 : 「新しい公民」 浜島書店</li> <li>● 問題集 : 「ワーク中3 日本文教出版版」 エデュケーショナルネットワーク</li> </ul>	